令和３年度（2021年度）第２回空知管内特別支援連携協議会概要

令和４年（2022年）３月
空知教育局義務教育指導班

今年度の第２回空知管内特別支援連携協議会は、令和４年２月24日（木）にＷｅｂ会議システム（Ｚｏｏｍ）で開催いたしました。本協議会において次のとおり確認されましたのでお知らせいたします。

【報告及び協議の概要】

事務局から令和３年度の特別支援教育に係る管内の状況や特別支援教育総合推進事業の取組について説明した後、今年度の「発達障がい支援成果普及事業」の連携推進地域である栗山町教育委員会指導主事　田中　雅志様から、連携推進地域の取組について御発表いただきました。

協議では、委員の皆様から、テーマに基づいて御意見や情報提供をいただき、北海道教育大学札幌校教授　安井　友康様から、協議のまとめと次年度の方向性について御助言いただきました。

【連携推進地域の発表「栗山町における福祉と教育の連携」】

栗山町教育委員会指導主事　田中　雅志　様

- 当町では、福祉と教育の連携の要として「栗山町特別支援教育推進協議会」を設置し、個別の教育支援計画「くりっこファイル」を活用して、保護者や特別な教育的支援が必要な子どもが、乳幼児期から学齢期及び社会参加に至るまで、地域で切れ目のない一貫した支援が受けられるよう情報共有を行っている。

協議①【縦のつながり「子どもの支援がつながる引継ぎの充実に向けて」】

- 空知校長会で実施した調査では、「そだちのスタートシート」の周知に関しては100%であったが、活用は50%程度であったことから、活用に向けた働き掛けが必要である。（空知校長会事務局長　菅原　伸介校長）
- 赤平市の幼稚園では、小学校への引継ぎに関して、個別の教育支援計画を作成したり、そだちのスタートシートを活用したりして引継いでいることから、スムーズな引継ぎにつながっている。（赤平市立赤平幼稚園　大越　かすみ園長）
- 幼稚園では、小学校の先生に活動の様子を見学してもらったり、幼稚園教諭が小学校へ行って引継いだりしていることから、子どもの様子を関係者間で共有することにつながっている。（学校法人駒沢岩見沢学園駒沢幼稚園　綱渕　秀幸園長）
- 入学後に必要な支援については、早い段階から教育委員会や中学校等と情報共有することが必要である。（北海道高等学校長会協会空知支部長　坪川　泰嗣校長）
- 岩見沢市においては、令和元年度から個別の教育支援計画の様式を統一しており、そのことがきめ細かな引継ぎを行うことにつながった。（空知管内市町教育委員会教育長会長　三角　光二教育長）

協議②【横のつながり「子どもを支えるサポート体制の充実に向けて」】

- 支援の一貫性が大切なことから、子ども一人一人に関わる関係者の特別支援教育に関する専門性の向上が大切である。（岩見沢市立緑中学校ＰＴＡ会長　金田　貴彦様）
- 障がいのある方には、地域づくりが大切であることから、本人に合った環境整備をしていくことが大切である。（空知総合振興局保健環境部社会福祉課長　中川　琢也様）
- 自分の特性等を理解していることで、本人の働きやすさにもつながることから、自己理解をすることも大切である。（岩見沢公共職業安定所統括職業指導官　奥山　貴博様）
- 放課後等デイサービスを利用したい児童生徒が増加してきているが、利用までに関わる利用計画の作成に時間がかかっている現状がある。（地域生活支援センター「あ～ち」所長　道場　薫様）

【「まとめ」と「次年度の方向性」】

北海道教育大学札幌校教授　安井　友康　様

- 卒業後も<u>一貫した支援や環境づくりが大切であることから、個別の教育支援計画等を活用することが大切</u>である。
- <u>「そだちのスタートシート」</u>は、何のためにあるのか、どのように活用したらよいのかなど、<u>活用の意図を教員等に伝えていくこと、支援に関する情報を可視化していくことが大切</u>である。
- コロナ禍においては、子どもや保護者が孤立しやすい傾向にあることから、本協議会の協議の柱となっていた<u>縦と横のつながりを意識</u>し、<u>情報等を各関係機関が共有して支援していくことが大切</u>である。